

医学に関わる方は、継続して学問を学ぶ義務があると言われております。近年の医学研究は、大きく3つに大別することができますとされてきました。**基礎研究**、**臨床研究**、そして**登録研究**です(図)。

基礎研究について：

医学とは、生体(人体)の構造や機能、疾病について研究し、疾病を診断・治療・予防する方法を開発する学問である(広辞苑)ため、常に実学的要素が求められ、臨床に応用できることを考える必要があります。それにはどれほどの時間と努力が必要でしょうか？臓器移植治療で必ず必要となる卑近な例では、免疫抑制薬の開発がありました。わが国の一般的創薬の時間とコストについて、「ヒトに投与されるまでに平均で11年。かかるコストが1000億円。しかも成功の確率が二万分の1」と言われています。そのため、医師が臨床応用を目指す基礎研究の世界に入ったら10年以上は研究しないと臨床応用での研究成果がわからないこととなります。しかも、近年は、科学研究はきわめて広く、奥深いものになっています。ここでの努力は、多くの医師に、医学博士たる称号が授与されるでしょうが、それは臨床応用に対する**可能性**を示したに過ぎません。

臨床研究について：

臨床研究の第一歩はその可能性を実際に患者に使う有効で安全かを検証していく**治験**の過程です。また基礎研究から臨床研究に移る過程の研究を**トランスレーショナル・リサーチ**と別途呼び臨床を意識した研究の重要性が近年問われてきました。ここでの研究の成果は、たとえば、移植の分野では、どのような移植手術をするのか？どのように免疫抑制薬を投与するか？感染症はどのように防ぐか？など、実際に患者を診る場合の**ガイドライン(指針)**としてまとめられています。いわば臨床医への指針や**ルール**を示すこととなります。臓器移植学は、1960年後半ごろからこの40年間、基礎研究から始まり臨床研究が開花した医学革命であったことは言うまでもありません。

登録研究について：

ガイドライン(指針)に示された通りに患者を診た場合、実際にどうなったかを示す最終形の研究です。そのためには、根拠のある集計を行う必要があります。

Transplant Libraryのすゝめと将来の移植学の研究について：

私の尊敬するSir Peter Morris先生は、移植領域の登録研究のために2005年から、イギリスにてCenter for the Evidence in Transplantationを設立し活動をしてこられました。そして、ここで臓器移植の登録研究に必要な、質の高い論文データを集約し、Transplant Libraryとして情報提供を開始しました。私は、Transplant Libraryの編集委員の一人です。これらのデータを利用することで、出版された臓器移植全般に関わる情報から、実際の患者予後**を正確に把握**することができます。そのことは、現在の移植治療の**問題点**を明確に示し、将来20-30年先のさらなる基礎研究の方向性を示してくれます。私は、この移植に関わる**真実**から、「移植可能な臓器を作る」という新しい基礎研究学問領域を切り開きたいと思っています。

[Transplantation Library Link](#)

[Transplantation Library trial link](#)

Transplantation Library日本代理店

iGroup Japan/iJapan KK

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-5-16 アルテ大手町9F

Tel: 03-5577-4899 / Fax:03-5577-4809 E-Mail: info@igroupjapan.com

Why doctors are in need of pushing forward researches ?

